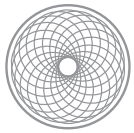
HTML講習

2010年6月1日火曜日



HTML No.25

ブラウザスタイルの初期化

ブラウザが実装しているスタイルは、表示の違いによりスタイルの適用方法が異なる。
ある程度対処するために、ユニバーサルセレクタを利用し、初期化しておく。

```
*{          }
```

余白のコントロール

BODY要素の余白は、IE・Firefox・Safariなどは**margin**でコントロールし、Opera は**padding**でコントロールする。余白を0にしたい場合は、**margin・padding共に0**で指定する。

センタリング

センタリングしたい場合、ブロック要素に関しては、左右マージン**auto**に指定。

インライン要素に関しては、親要素のブロック要素で**text-align: center**で指定。

IE６に関して、マージン**auto**が効かないので、親ブロック要素に**text-align: center**

リストを利用した構造化ナビゲーション

グローバルナビゲーションはページ上部に配置するものである。**ul要素**を利用しブロック要素として定義し、CSSでインライン化した方が構造的に正しく、ユーザビリティが高い

CSSをOFFにした場合、箇条書きリストとして表示され、ユーザーが直感的に理解しやすいナビゲーションになる。

フッターナビゲーションも同様。

下線を点線に変える

a要素はWebページ上で、他ページへリンクという重要な役割を果たすため、どのようにデザインするかでページの印象が大きく変わる。

基本的なデザイン方法として、下線を点線に変えるだけでも印象を変えられる。

カーソルの状態によりリンクスタイルを変えたい場合

:link、:visited、:hover、:activeを利用する。

Emailの指定

href属性に、**mailto:**で指定した場合、自動的にメーラーを起動する機能を指定できる
meilto:にメールアドレスを続けて、?・&を付けた以下の内容を記述することにより、件名・本文を自動で入力させる事もできる。
【subject】件名・【body】本文
メールアドレスに続けて記述する場合、？・＆の順に付ける。＆の後に他に続ける場合は＆で続ける。

（例）

強調

テキスト内の重要な部分を強調して定義することで、ユーザーに重要な部分を分かりやすくし、Webの正しい構造化とユーザビリティを高く指定できる。

em要素　斜体　**strong要素**　太字

省略語と頭字語

XHTML上では、明確に役割を指定する事が望ましい。

省略語を使用した場合は、以下の要素を利用し定義する。

abbr要素　一文字ずつ発音する省略語

acronym要素　単語として発音する省略語

title属性で、実際の単語を説明する。

ソースコード

プログラムやスクリプトのソースコードをテキストとして定義するには、以下の要素を使用する。

pre要素　ソースコードなどの整形テキストを改行・空白そのままに表示する。ブロック。タブは利用できない。

code要素　ソースコードとして定義する要素。インライン。

※code要素をpre要素で囲み指定する方法が多い。

ドロップキャップ

:fist-letterを使用し、ドロップキャップ表示にする。
マージンとパディング・ボーダーは一緒に指定できないという制約がある。

そのため、以下のような指定方法がいい。

ドロップキャップしたい文字をspan要素で囲み、span要素に以下の内容を指定する。

```
span {
    float: left;        magin-right: px;    margin-bottom: px;
    padding: px;        border: ;           background-color: ;
    color: ;            font-weight: ;      font-size;
}
```

大文字小文字の変換

大文字で書かれた文字は、音声ブラウザで一文字ずつ発音されるので、**text–transform**を利用して小文字を大文字に変換した方が、アクセスビリティとして正しい。

スモールキャピタル

大文字小文字の変換と同じ。小文字をスモールキャピタルとして利用したい場合は、アクセシビリティの性質上、**font-variant**を使用する。

見出し

見出しは、Webページ及び文章のタイトルである。目にとまりやすいようにデザインし指定することにより、ユーザーは見出しの範囲を視覚的に理解し、始点と終点を明確に認識できるので、ユーザビリティにいいデザインとなる。

backgroundで、画像を使用することにより、非常に細かな部分まで行き届いていると思わせるデザインを実現できる。

引用文

まとまった引用文として定義するには、**blockquote**要素を使用する。

※インデントされ、他の部分と区別しやすいように表示される。
直接**インライン要素やテキストを含むことができない**。ｐ要素などのブロック要素を含ませ定義してから、p要素内にインライン要素やテキストを含ませる。

インライン要素内で引用文として定義する場合は、**q**要素を使用する。

blockquote・q共に、**cite**属性で引用先URLを指定する。

リスト

ナビゲーション（上記リスト説明参照）や項目リスト・インデックスなどを定義する場合に使用する。

通常は、箇条書きリストである**ul**要素を利用する。

順序や順番を示す必要があるリストの場合は、ol要素を使用する。
※この場合、**list-style-type: none**は使用せず、番号の種類を指定するくらいがいい。

画像を使用する場合、list-style-imageより、**background**で指定した方がより細かな調節ができる。

【用語とその説明】【リンクリスト】【カテゴリーリスト】【参考文献リスト】【更新リスト】の場合は、定義型リストである、**dl要素**と**dt・dd要素**を使用する。

表デザイン

table要素に、**border-collapse: collapse**。**border-spacing: 0**。**empty-cell: show**。
table要素の**属性は指定しない**。
table要素・th/td要素に**border**を指定。

th要素は、分かりやすく**メリハリ**を付ける。**キャプション**を分かりやすくデザインする。

フォーム

form要素は、**ブロック要素**か**スクリプト要素**しか子要素にできない。
定義型リストを利用することにより、ラベルと入力フォームを定義し、明確に構造化できる。

inputなどの入力フォームに、classを使用し**width**を指定することにより、ブラウザによって幅が変わる事を防げる。ボーダーを付ける事により、入力フォームを分かりやすく見せる事ができる。

:focusを使用することにより、フォーカスを受けた時のスタイルを指定できる。

フォームを正しく構造化するために、**fieldset**要素と**legend**要素を指定しておいた方がいい

画像代替

img要素で画像を指定することで画像を表示できる。
テキストブラウザ・音声ブラウザでは、画像を表示されないことから、backgroundで画像を指定するやり方が考案されている。

backgroundを利用した場合のテキストの処理

text-indentでの表示領域外への指定。

:hoverによる、ロールオーバー効果の付与。

h1でのロゴの定義

h1要素は、各ページ固有の**最上位の見出し**を定義するものなので、トップページ以外で使用するのは構造的におかしくなる。トップページでもロゴをh1で指定しなければいけないという事はない。

印刷用スタイルシート

PC表示だけではなく、印刷用スタイルを使用する事により、印刷時のレイアウトを指定する事ができる。

link要素による印刷用スタイルシートの参照

@importによる印刷用スタイルシートの参照

ポイント

- 印刷に不要な内容の非表示化　display: none;
- 固定幅・フロートの解除
- フォントファミリー、フォントサイズ、テキストボックスの高さの指定